

レゾルブベータチタンワイヤー 症例レポート

① レゾルブベータチタンワイヤーの特性を生かした臨床

大分県大分市開業 医療法人アンジュ エンゼル矯正歯科 酒井 昭行先生

当医院では、リンガル矯正治療において上顎抜歯スペースの閉鎖時にループメカニクス（T-loop）を使用することが多い。

リンガル矯正ではスペースの閉鎖時に水平的、垂直的ボーイングエフェクトが起きやすいため、アンチボーイングバンドが必要になる。上顎抜歯スペースの閉鎖時、スライディングメカニクスを用いるときに大きなアンチボーイングバンドを付与すると、ワイヤーとの摩擦抵抗が大きくなり治療期間が長くなる。治療期間を解消するためにループメカニクスで対応した方が治療の効率化が図れ、ボーイングエフェクトを防止しやすい。そのため T-loop 作製時に、ループのベンディング時の弾性（ワイヤーの破折防止）とアンチボーイングバンド付与後のワイヤー変形の

防止、さらに持続した力が加わる剛性が必要である。弾性と剛性は真逆だが、両方を兼ね備えた材質が求められる。

レゾルブベータチタンワイヤーは、今までになかった弾性と剛性をもったワイヤーである。

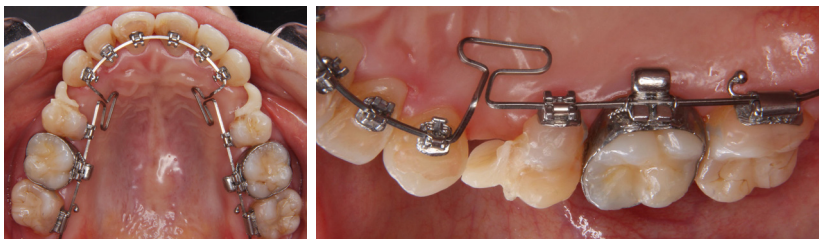
またフィニッシングワイヤーとしても、ステンレススチールワイヤーよりも弾性があるためスロットに適合しやすく、細かいディテールリングが容易にでき、ブラケットの離脱や破損も起きにくい。

当医院では、リンガル矯正治療のスペースの閉鎖やディテールリングには 0.017×0.025 サイズを使用している。またラビアル矯正治療においても、ディテールリングには 0.021×0.025 サイズや 0.019×0.025 サイズを使用している。

レゾルブベータチタンワイヤー使用症例 症例①

0.017×0.025 ワイヤーにて上顎抜歯スペース閉鎖中

図1) 上顎咬合面観 T-loop のアクティベーション後 図2) 上顎側面観 T-loop のねじれ（柔軟性）



症例②

図3) 上顎 T-loop にてスペースの閉鎖開始時



図4) 上顎 T-loop にてスペースの閉鎖終了時ボーイングエフェクトが起きていない



症例③

図5) 0.021×0.025 ワイヤーにてディテールリング中サファイアブラケットのスロットに適合している（弾性）



販売名	一般的名称	認証番号	クラス分類
レゾルブベータチタンワイヤー	歯列矯正用ワイヤ	228AGBZX00065000	II (管理)

カスタマーサービス

FAX:0120-120-659

0120-789-123

受付時間

9:00~17:00
(土日祝日を除く)

製造販売元

デンツプライシロナ株式会社

本社 / 〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10 麻布偕成ビル
http://www.dentsply-sankin.com